

# 宇宙就活 2009 最終報告書

宇宙就活 2009 実行委員

< 目 次 >

1 . ご挨拶	2
2 . プログラムの流れ	3
3 . プログラム概要	4
3.1. 講演	
3.1.1 秋山 演亮 様 (和歌山大学)	4
3.1.2 吉田 倫哉 様 (独立行政法人宇宙航空研究開発機構)	5
3.1.3 林 信直 様 (宇宙技術開発株式会社)	6
3.2. グループディスカッション	
3.2.1 9日 (1日目)	7
3.2.2 10日 (2日目)	8・9
3.3. 企業紹介	10・11
4 . 参加者データ	12～14
5 . アンケート結果	15・16
6 . 会計報告	17
7 . 編集後記	18
8 . 実行委員紹介	19
9 . 出展企業・広報協力団体一覧	20

## 1. ご挨拶

2010年1月9日。真冬の寒空の下、当イベント「宇宙就活2009」は無事開場を迎えました。サブプライムローン問題に始まり政府のデフレ宣言に至るまで、大学生にとって現在は非情なまでの就職難であり、その心中は決して穏やかなものであるとは言い難い状況です。この状況下で就職活動生同士は相互にライバル意識を持ち、横のつながりが薄まりつつあります。情報収集がカギを握るといっても過言ではない就活戦線において、横のつながりが薄れる現状は就活生を更なる苦境へ追い込み就職難に拍車をかける。そう思った私たち実行委員はこの現状を打開するべく、宇宙業界を目指す学生同士のコミュニティを生成し互いに未来の宇宙業界を盛り上げることを目的にこのイベントを開催するに至りました。

2006年に第1回開催を成功させてから、今年で4回目を数える当イベントですが、本年度も多くの学生と各企業様からのご支援・ご協力を頂戴いたしまして無事成功をおさめることができました。本年度イベントの運営にあたっては「宇宙という曖昧なビジョンを具現化」し、「就職への足がかりをつくる」ということに焦点を当てコンセプトを設定致しました。日本で唯一の宇宙開発業界に絞った就活イベントということで、プログラムの選定を学生の目線で決定し、就職活動生のニーズに応じた企業様にご参席頂くことで他に類を見ない最もニーズに対応した有意義な就活イベントを目指して運営して参りました。

続く不況の中、採用活動を打ち切られた企業様が多く私どもと致しましてもイベント開催に際して不安な要素は多々ございました。ご参加頂いた各企業様にも正当な御礼をお返しできず、恐縮するばかりではございますがこの場を借りてもう一度、厚く御礼申し上げます。ご参加頂いた企業様方と学生のみなさんに支えられ、当イベントは年々学生主催で引き継いで参りたいと考えておりますので来年度もどうぞよろしくお力添えのほどお願いいたします。

本日は当イベントに関して詳細なデータが集まりましたので、遅くなりましたがここにご報告させていただきます。今後ともお世話になることが多々あるかと存じますが、実行委員ともどもどうぞよろしくお願いたします。

2010年1月29日

「宇宙就活2009」実行委員 一同

## 2 . プログラムの流れ

イベントは1日目(1月9日(土))と2日目(1月10日(日))の2日間に分け、下記のよ  
うなスケジュールで実施致しました。

### 1日目

- 10:00 開場
- 11:00 - 11:10 開会式
- 11:10 - 11:55 講演 和歌山大学 秋山演亮教授  
「宇宙業界とは何か」
- 11:55 - 12:40 講演 JAXA 産業連携推進室 吉田倫哉様  
「JAXA で働くとは」
- 12:40 - 13:30 昼休み
- 13:30 - 15:00 グループディスカッション
- 15:00 - 15:10 休憩
- 15:10 - 16:30 企業説明会
- 16:30 - 16:40 閉会式

### 2日目

- 10:00 開場
- 11:00 - 11:10 開会式
- 11:10 - 11:55 講演 SED 管理統括部総務人事課 林信直様  
「宇宙業界を目指すにあたって」
- 12:00 - 13:30 グループディスカッション
- 13:30 - 14:20 昼休み
- 14:20 - 16:00 ブース訪問
- 16:00 - 16:20 休憩
- 16:20 - 17:25 ブース訪問
- 17:40 - 17:50 閉会式
- 18:00 - 19:30 懇親会

## 3 . プログラム概要

### 3 . 1 . 講演

#### 3 . 1 . 1 . 和歌山大学 秋山演亮教授講演

##### 3.1.1.1. 目的

宇宙産業の歴史・現状といった宇宙に関する知識を身につけ、宇宙産業の未来を考える。

##### 3.1.1.2. 講演者

和歌山大学 戦略的・大学間連携支援事業担当教授 秋山 演亮 様

##### 3.1.1.3. 講演概要

本講演では、世界のロケット技術の発展の背景、日本独自のロケット「ペンシルロケット」、どうして敗戦国である日本は世界で4番目に人工衛星を飛ばすことができたのか、宇宙基本法の仕組みなど宇宙政策に関してをお話し頂きました。

講演は“宇宙基本法”や“基本計画”等、今後の日本の宇宙政策にまで踏み込んだものとなり参加者にとって非常に斬新な内容をご提供頂きました。また講演中所々で学生に質問・疑問を投げ掛けたり、これから就職する学生へのアドバイスも含まれていたり、参加者にとって刺激的な講演でした。

全体としても、講演時間が非常に短く感じられるような非常に内容の濃い有意義な時間とすることが出来ました。



秋山先生講演風景



### 3.1.2. JAXA 吉田様講演

#### 3.1.2.1. 目的

宇宙産業の現状、JAXA の組織・業務内容の理解

#### 3.1.2.2. 講演者

JAXA 産業連携推進室 吉田 倫哉 様

#### 3.1.2.3. 概論内容

本講演では、日本の宇宙開発における JAXA の位置付け、JAXA の組織図と研究開発事業の具体的な内容及び現状、宇宙関連産業の分類と現状、産業連携推進室の業務内容などについてお話頂きました。

講演では JAXA の業務形態を図や写真を使い非常にわかりやすくご解説頂き、参加者からも JAXA について理解が深まったと好評でした。また、宇宙関連産業の全体像、産官学連携の結び付き等の講演もして頂き、直接知ることの難しい文系の仕事についても理解を深めることが出来ました。

45 分という限られた時間の中での講演でしたが、参加者との質疑応答も活発に行われ、充実した時間を頂戴することができました。



吉田様講演風景



### 3.1.3. 宇宙技術開発株式会社 林様講演

#### 3.1.3.1. 目的

宇宙業界の欲しい人材について考える

#### 3.1.3.2. 講演者

宇宙技術開発株式会社 総務人事課 林 信直 様

#### 3.1.3.3. 講演概要

本講演では、日本の宇宙業界と業界が欲している人材に付いて、また就職活動をしていく上で身に付けておくべき基本的な姿勢等に関するご講演を頂きました。

講演では、実際に採用を行っている現場から見た近年の学生の印象が紹介され、就職活動を控える参加者は真剣な眼差しで講演を聞き入っていました。また、就職活動を行う学生へのアドバイス等も具体的な事例を交えて紹介して頂き、参加者の必死にメモを取る姿が多数見受けられました。

参加者からも「人事の目線からの話を聞くことが出来て有意義だった」「就職活動に対する理解が深まった」という声を頂き、非常に有意義な講演とすることが出来ました。



林様講演風景

## 3.2. グループディスカッション

### 3.2.1. 1日目

#### 3.2.1.1. 目的

日本にとって新しい国家戦略としての宇宙政策を考える。

#### 3.2.1.2. 司会進行

和歌山大学 戦略的・大学間連携支援事業担当 専任教授 秋山先生

#### 3.2.1.3. グループディスカッション概要

1日目グループディスカッションでは、新しい日本の宇宙政策について参加者が6人1組となって話し合い、1枚のA4用紙に提言をまとめてもらいました。政策のテーマは「輸送系」「実利用系」「宇宙探査系」「宇宙外交系」「宇宙教育系」「地上インフラ系」の6つあり、参加者はこの中から1つのテーマを選び話し合いました。政策としては宇宙ステーションの新たな利用方法や、宇宙観光産業の活性化、新たな探査衛星の打ち上げ等たくさんのアイデアが出されました。

ディスカッションそのものも非常に盛り上がり、話し合いの終了合図の時にはまだまだ話足りないといった様子が伝わってきました。



ディスカッション風景



### 3.2.2. 2日目

#### 3.2.1.1. 目的

就職活動時の試験を見越したテーマ設定を行い、参加者同士の相互コミュニティの形成を促す

#### 3.2.1.2. グループディスカッション概要 タイムスケジュール

ディスカッショングループは座席毎に文理混合の6人チームを指定、不足人数を実行委員で補充する形となりました。グループ決定後、ワークシートを配布、右記タイムスケジュールに従い、「斬新な宇宙ビジネスを提案せよ」というテーマで進行致しました。

12:00～12:10	説明
12:10～12:30	ディスカッション
12:30～12:40	中間発表(3組)
12:40～13:10	ディスカッション
13:10～13:30	最終発表・総評

尚、最終発表時の総評の為 SED より林様、SSD より広崎様・大貫様、実行委員を兼ねまして JAMSS より峰松、ソランより百武様にご列席頂きグループからの発表毎にご意見を頂戴致しました。



ディスカッション風景

進行に関しましては開始時の進行説明を除いて実行委員からの関与を可能な限り避け、ディスカッションに最も時間を割く形を取りました。ディスカッション実施中は実行委員で机間巡視を行い、ワークシート・ディスカッションに関する質問を受け付ける程度に止め、誘導的発想に収まらないことへの配慮を最優先としました。



中間発表時風景

<グループ発表内容例>

宇宙結婚式  
衛星を利用した画像解析サービス  
ブラックホールを利用したごみ処理  
施設の展開  
宇宙テーマパーク

本プログラムにおいては総じて時間が短く限られた時間内での議論となりましたが、全グループ予想以上に盛り上がり、最終発表までにワークシートを埋め発表が可能なレベルまで議論を煮詰められたという結果に至りました。結果発表時には各企業様から評価を頂戴できるということで締りのあるグループディスカッションを展開できました。



ディスカッション 風景



### 3.3. 企業紹介

#### 3.3.1. 目的

参加学生に対して、各企業の業務内容を知ってもらうこと、宇宙業界のどの企業でどんな業務に興味があるのかを自己分析してもらうこと

#### 3.3.2. 出展企業

1月9日

宇宙技術開発株式会社様 (SED)  
株式会社中央エンジニアリング様

1月10日

宇宙技術開発株式会社様 (SED)  
宇宙システム開発株式会社様 (SSD)  
スカパーJ-SAT株式会社様  
独立行政法人宇宙航空研究開発機構様 (JAXA)  
有人宇宙システム株式会社様 (JAMSS)

#### 3.3.3. 概要

企業紹介では企業についての説明を、1日目は講演形式、2日目はブース形式で行って頂きました。各企業パワーポイントや紙の資料を配ったりビデオを用いたりしてとても工夫が見受けられました。会社説明の時間は1回当たり30分間という限られた時間ではありましたが、様々な企業の事業内容について聞くことで、宇宙業界で働くことに対して漠然としていたイメージをより明確にして頂きました。1日目に参加して頂いた企業様には講演形式で会社説明を行って頂きました。時間は各社30分でした。



宇宙技術開発株式会社様



株式会社中央エンジニアリング様

2日目に参加して頂いた企業様にはブース形式で会社説明を行って頂きました。  
1ターム30分として、合計5ターム行いました。



宇宙システム開発株式会社様



有人宇宙システム株式会社様



株式会社スカパーJ-SAT様



独立行政法人宇宙航空研究開発機構様



宇宙技術開発株式会社様

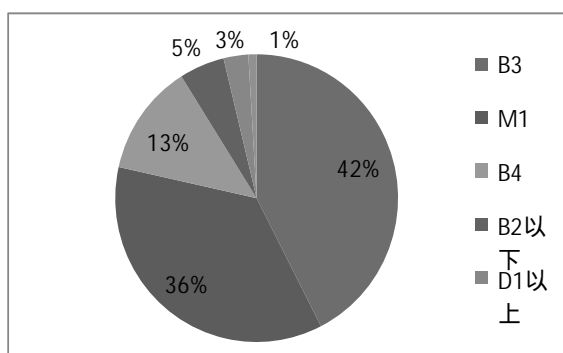
## 4. 参加者データ

【参加者数データ】

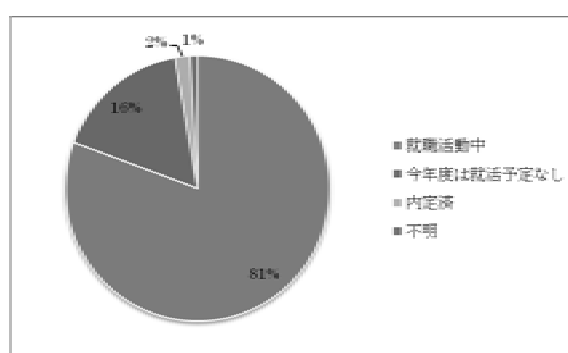
	9日(土)	10日(日)
参加申込数	207人	246人
来場者数	153人	184人

以下のデータはすべて延べ人数・218人を総数とする。

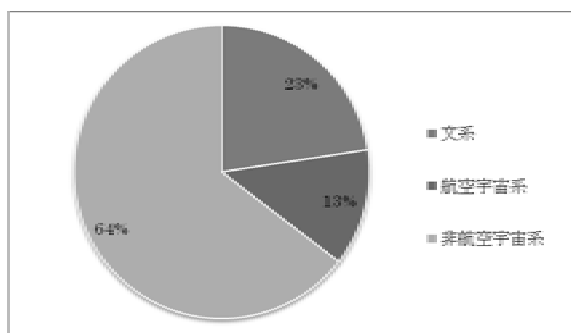
【学年別データ】



【就職活動状況】



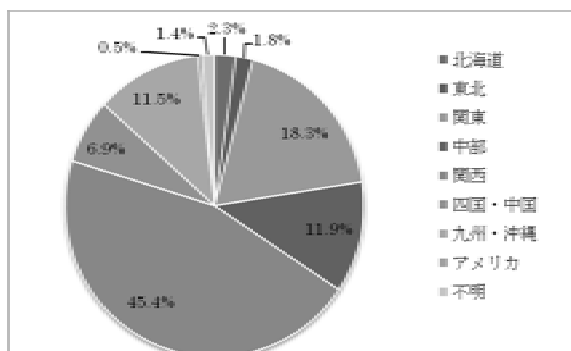
【専攻別データ】



学年別、就職活動状況のデータを見ると、本年度の参加者の特徴として、昨年度よりも就活学年・就職活動中の学生の割合が多かったことがわかります。

専攻別データでは、昨年度に比べて文系の学生の割合が多く、航空宇宙系の学生が少ないという特長が見受けられました。

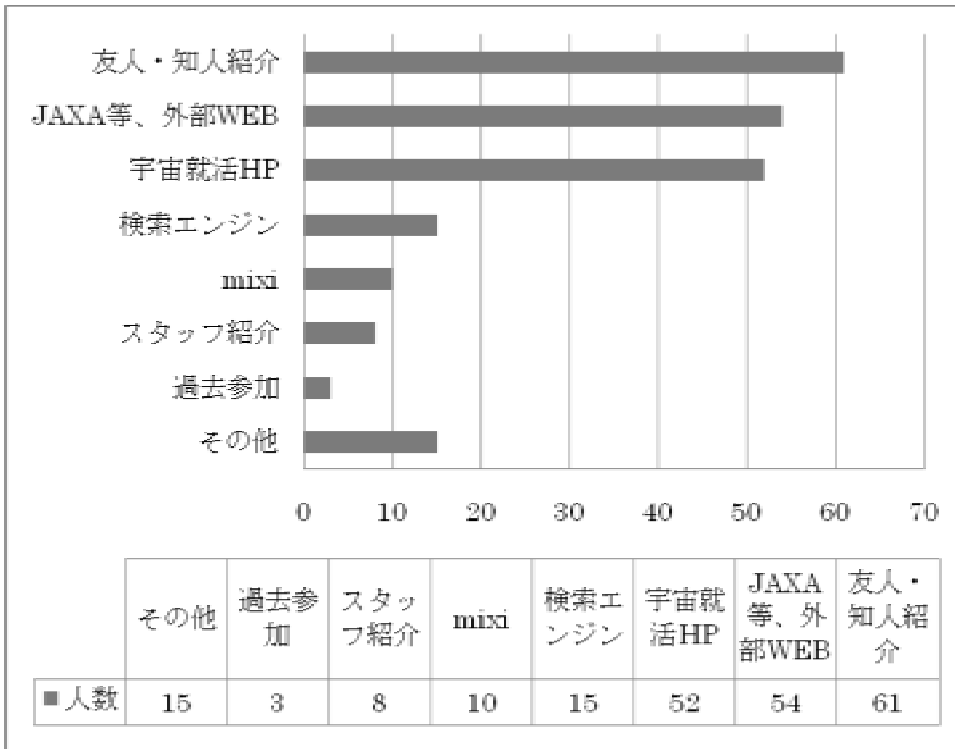
【地域別データ】



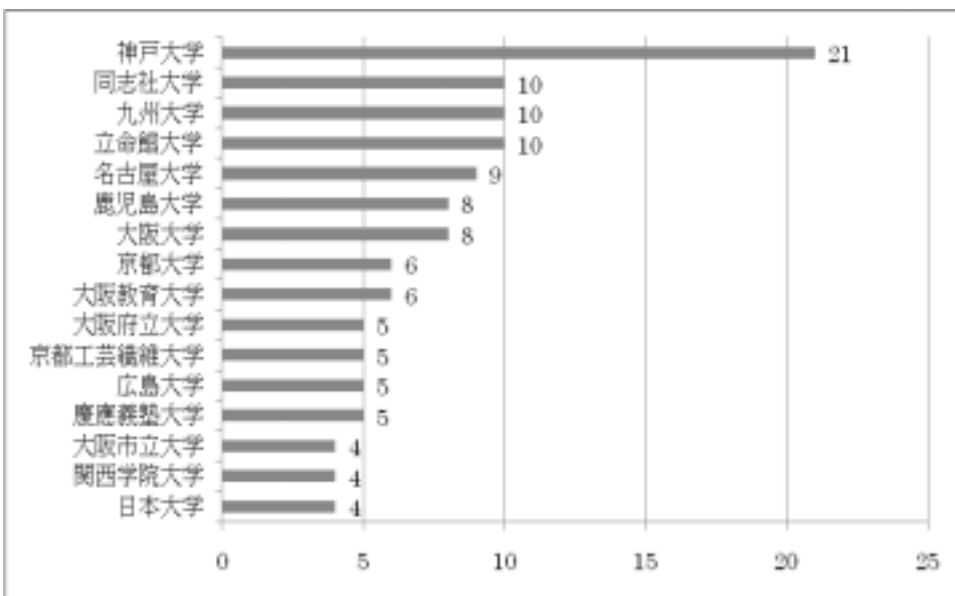
やはり関西開催ということもあって関西出身の学生が多く目立ちましたが全体的に北海道から沖縄まで言葉の通り日本全国からの参加者が訪れました。

また本年度はアメリカから帰国してのご参加を頂く等、学生向けの広報が成功したことが伺えます。

【広報手段別データ】



【参加者出身大学(4人以上)】



以上から、関西の大学が6割程度占めている事が分かります。参加者出身地と同じく在学大学の立地としても関西に留まらず、関東、中国、九州の大学からも多数参加していただきました。例年に比べて西日本の大学からも多くの参加者を得ることができました。

【上記グラフ以外の出身校】

愛知大学	京都府立大学	鳥取大学
愛知県立大学	近畿大学	同志社女子大学
茨城大学	熊本大学	徳島大学
愛媛大学	久留米工業高等専門学校	名古屋工業大学
大阪高専	神戸市外国語大学	奈良先端科学技術大学
大阪電気通信大学	公立はこだて未来大学	奈良大学
岡山大学	国土館大学	長尾技術科学大学
香川大学	芝浦工業大学	日本文理大学
学習院女子大学	首都大学東京	新潟大学
金沢工業大学	上智大学	一橋大学
金沢大学	静岡大学	兵庫県立大学
関西外国語大学	島根大学	北海学園大学
関西大学	ジョージア工科大学	北海道工業大学
近畿療術研修所	成城大学	北海道大学
木更津工業高等専門学校	崇城大学	舞鶴工業高等専門学校
岐阜大学	中京大学	宮崎大学
琉球大学	テキサス大学アーリントン校	明星大学
九州工業大学	帝京大学	明治大学
京都外国語大学	電気通信大学	名城大学
東京大学	東海大学	山形大学
京都産業大学	東海大学	山口大学
東北大学	東京学芸大学	横浜国立大学
東京女子大学	東京工芸大学	

## 5 . アンケート結果

本年度宇宙就活ではご参加頂いた各企業様及び参加学生からアンケートによるご意見を頂戴いたしました。集計が終了し実行委員へのフィードバックも完了いたしましたのでここに一部ご紹介させていただきます。

### <プログラム>

#### 良かった点

- ・時間通りに進行していた
- ・運営が円滑だった

#### 改善点

- ・総じて時間が短く、駆け足気味だった  
(特にグループディスカッション)
- ・企業数が少なすぎる
- ・昼休みが短すぎる
- ・待ち時間が長い
- ・参加者同士の交流の機会を増やしてほしい

全体を通して各プログラムの忙しなさが目立ちました。特にご講演、企業紹介時にはお話頂く方々にも短い時間の中で大変ご迷惑をおかけしたことと思います。来年度は開催時間とプログラムの比率を考慮し、ご講演・ご紹介頂く時間にゆとりを持たせたいと思います。

### <スタッフについて>

#### 良かった点

- ・とても親切だった
- ・臨機応変且つ丁寧で笑顔が好印象
- ・食事の場所等、細かい気遣いがよかった
- ・駅からの誘導がいたことで安心した
- ・困っていた時積極的に声をかけてくれた
- ・司会がフレンドリー
- ・学生らしく接しやすかった

#### 改善点

- ・余り接する機会が持てなかった
- ・名札の作り忘れ、大学名ミスなどが目立つ
- ・誘導開始時間が遅い、誘導ポイントが少ない
- ・受け付け開始が遅い
- ・受付終了後やGDのグループ分け等、指示が不十分
- ・司会が進行に影響していた
- ・一日目に運営の開始が遅れてしまった

両日ともに、スタッフの働きに対する評価を高く頂戴することができました。一部受付や進行上の不手際へのご指摘も頂きましたので来年度への引継ぎに生かしより円滑なイベント運営を行いたいと思います。



<全体>

良かった点

- ・冊子に食事ができる場所等紹介されていたのが便利だった
- ・スクリーンが大きく、見やすかった
- ・私服参加でリラックスできた
- ・今まで参加したどの説明会より面白かった
- ・宇宙業界の視野が広がった
- ・文系でも参加しやすかった
- ・全体的に少人数で企業との距離を近く感じることができた
- ・名札が用意されていてよかった
- ・同じ業界を目指す学生が多く刺激された
- ・同じ宇宙業界を目指す学生同士仲良くなれてよかった

改善点

- ・全ての講演において、紙資料を配布するべき
- ・両日ともに企業訪問したい
- ・参加者数の枠を増やしてほしい(2日目に参加できなかった)
- ・就活というより大学の講義のようだった
- ・11・12月に開催してほしかった
- ・2日間は間延びする
- ・規模を拡大してほしい

本イベントの目的に対してアンケートから頂くご意見・ご感想が我々実行委員の予想を超えるほどの好感触であったことを嬉しく思います。特に宇宙業界と就活生、そして同じ業界を目指す学生同士の接点を生み出したことは実行委員として本望であり、またアンケートにて高い満足度を返していただけたことは来年度開催へ向けて大きな励みになりました。同時にアンケートと反省会を通して多くの改善点を見出すことができましたので、来年度開催時にはそれらを修正し、冒頭の通り更なるイベントの充実を図りたいと思います。

## 6 . 会計報告

収入の部	
企業協賛金	220,000
学生参加費 (参加学生数 221 名 × 500 円 / 人)	110,500
懇親会参加費 (参加者数 115 名 × 2,500 円 / 人)	287,500
合計 :	618,000

支出の部	
会場費	298,050
(内訳)	
施設使用料	( 232,890 )
備品使用料	( 45,360 )
会場設置料	( 19,800 )
懇親会費	240,016
備品	21,930
HP 運営費	11,340
スタッフ経費	22,480
その他	630
合計 :	594,446

収支決算	
黒字 次年度申し送り	23,554
合計 :	23,554

以上

## 7. 編集後記

本年度開催を終了して早 20 日が経過しようと致しております。ご出展頂いた企業様、ご講演頂いた先生方にはご報告が大変遅くなり誠に申し訳なく存じております。本イベントを通して私たち実行委員一人一人も大きく成長することができました。まだまだ学生としての甘えが抜けきらず、ご協賛頂いた皆様には多大なるご迷惑と御手数をおかけしたことと思えます。最後までご協力いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

和歌山大学より秋山先生、宇宙航空研究開発機構より吉田様、宇宙技術開発株式会社より林様には突然の依頼にも関わらず素晴らしいご講演を賜り、実行委員含め参加者一同非常に有意義な時間を過ごすことができました。当日も満足におもてなしできず至らない実行委員ではございますが、最後まで暖かくご支援頂き心強くイベント運営に専念することができました。ありがとうございました。

またご出展・協賛頂きました宇宙技術開発株式会社様、独立行政法人宇宙航空研究開発機構様、宇宙システム開発株式会社様、株式会社スカパーJSAT 様、株式会社中央エンジニアリング様、有人宇宙システム株式会社様には採用活動にお忙しい時期に貴重な御時間を頂戴いたしまして、誠にありがとうございました。各企業様からのお力添えを頂いて、宇宙就活 2009 は成功を収めることができました。この場をかりて厚く御礼申し上げます。

最後に KSE、KSSN、LiS、UNISEC、STEP、TSRP、当日スタッフの皆様にも多大なご協力を頂きありがとうございました。本イベントの運営を行う上で 8 名の実行委員だけでは手の回らないことが多くあり、皆様のご協力を頂戴して本イベントを開催に運ぶことができました。

報告書の編集を行う中で改めてご協力・ご支援頂いた皆様の偉大さを実感致しました。講演者様、企業様、スタッフの皆様、そしてご参加頂いた学生の皆様のお力をお借りして、宇宙就活 2009 は成功しここに正式に終了することができました。書面上で恐縮ながら、今一度御礼申し上げます。来年度宇宙就活開催の折には再び御世話になることがあるかと思えますが、どうぞよろしくお願いいたします。

報告書総編集 / 文責 大西由莉  
奥田龍治

## 8 . 実行委員紹介

### 代表

栗林 健 (関西学院大学 総合政策学部 4回生)

### 副代表

空 栄一郎 (同志社大学 工学部 3回生)

山田 龍太 (近畿大学 理工学部 3回生)

### 渉外

大西 由莉 (京都外国語大学 外国語学部 3回生)

### 広報

奥田 龍治 (同志社大学 工学部 3回生)

高山 郁代 (関西学院大学 総合政策学部 3回生)

平岩 亜佑美 (関西学院大学 総合政策学部 4回生)

### 会計

杉山 勇斗 (同志社大学 工学部 3回生)

### アドバイザー

峰松 拓毅 (有人宇宙システム株式会社)

能美 康彦 (首都大学東京 / 08年度実行委員代表)



## 9 . 出展企業・広報協力団体一覧

### 協賛企業 様 50 音順



宇宙技術開発株式会社



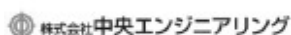
宇宙航空研究開発機構



宇宙システム開発株式会社



株式会社 スカパーJSAT



株式会社中央エンジニアリング



有人宇宙システム株式会社

### 広報協力団体 様 50 音順

Kansai Space Explorers

宇宙に興味を持つ関西圏の学生が集まった学生団体。本イベントの主体運営組織。

関西学生星のネットワーク

関西圏の天文部・サークル同士の人的交流、情報・知識・技術交流を目的とした学生団体。

Live in Space

有志の学生が集まり、一般の方向けに宇宙の身近な情報や体験を提供。

UNISEC

大学・高専学生による実践的な宇宙工学活動を支援することを目的とした NPO 法人。

筑波大学宇宙技術プロジェクト

宇宙を目指したものづくりに取り組む団体。ハイブリッドロケットの打ち上げ等に尽力。

東海大学学生ロケットプロジェクト

学生へ宇宙理工学の知識・技術を習得させ将来の宇宙技術者を養成。